

エジプトいろいろ オペラ、歴史そしてエジプトへのお誘い

日本から遠く離れたエジプトのカイロに1994年から2004年まで丁度10年間駐在しました。その後状況が変わり気軽に観光に行けるという国ではなくなりましたが、駐在中に興味を抱いたことをいくつかお話してみたいと思います。



カルナック神殿

かの地では狭い日本の我が家とは大違いの大きな家に住んでいましたので、隣家からの苦情を気にすることなく、音楽好きの仲間と一緒にLD/DVDでオペラを大画面・大音量で大いに楽しみました。

そしてヨーロッパへの出張や旅行の際には時間を見つけて本場の歌劇場へ飛び込んでオペラを生で楽しみました。まず「アイーダ」、このオペラは1869年に開通したスエズ運河を記念して建てられたカイロ歌劇場の開場式の為に、エジプト太守イスマイル・パシャがヴェルディに作曲を依頼したものです。原作は初代カイロ博物館長であったフランス人オーギュスト・マリエットの原案に基づき、カミーユ・デュ・ロークルが仏語の散文体で書いた台本を基にしています。デュ・ロークルはこれに相応しい作曲家はヴェルディしかいないと、台本をヴェルディに送り熱心に依頼、ヴェルディが最終的に作曲を引き受けました。

オペラの完成はカイロ歌劇場の完成に間に合わず(歌劇場完成の際には、ヴェルディの「リゴレット」が上演されました)、1871年12月24日カイロ歌劇場でヴェルディが指名した歌手により初演され大成功をおさめました。

捕らわれのエチオピア女王アイーダとエジプトの勇将ラダメスの悲恋物語で古都メンフィス(現在のカイロの南24km)とテーベ(現在のルクソール)が舞台となっています。ラダメスは墓に生き埋めにされ、既にその墓に忍び込んでいた愛するアイーダと共に、一生を閉じることになります。エジプトとエチオピアとの間に戦いがあったとは聞いたことがなく、実際にはヌビア(現在のスーダン)(即ち、アイーダはヌビア女王)と捉えるべきで、時代は第二中間期と思われます。マリエットは、神殿跡を発掘している時に、男女2体の骨が見つかったことから物語を発想したと言われています。駐在時エジプトでは秋に古代遺跡を舞台にイタリア等からも歌手を呼び、アイーダを上演するようになっており、古代エジプトにいるような、なかなかいい雰囲気を楽しみました。

そしてモーツァルトの「魔笛」。このオペラは架空の時代のエジプトを舞台としています。モーツァルト及び台本を作ったシカネーダーが加盟していた秘密結社フリーメイソンの思想

から大きな影響を受けたおとぎ話のようなオペラで、背景にはピラミッドが見え、オペラの最後は僧侶達が、古代エジプトで崇拝されたオシリス神(冥界の神様)とイシス女神(オシリスの妹で、エジプトの妻及び母の美德を要約したような女神)を讃えて、オペラは終わります。

更にシェーンベルクが旧約聖書に基づき自身で作った台本を基に作曲したオペラ「モーゼとアロン」がありますが、映画「十戒」にもなったモーゼの「出エジプト」がテーマとなっています。モーゼの「出エジプト」はエジプトの新王国時代の大王ラムセス2世(紀元前1279年頃～1213年頃)の時代に起きたのではと言われています。

もう一つ、有名なエジプト女王クレオパトラ7世(紀元前51年～紀元前30年)とジュリアス・シーザーの話に基づき、ヘンデルがオペラ「ジュリアス・シーザー」を作曲しており、これはアレキサンドリアが舞台となっています。

更にフランスの作曲家マスネが作曲したオペラ「タイース」もエジプトが舞台となっています。アナトール・フランスの小説を基に、古代エジプトを舞台にキリスト教と異教、精神的な愛と肉欲との対立などが描かれています。修道士アタナエルはアレキサンドリアの遊女タイースを信仰の力で神の道に戻そうとするが、次第にタイースに惹かれていく。タイースは3カ月余りの改悛の行の後、罪が清められ天に召されようとする。アタナエルは「恋こそが真実だ」とタイースに絶叫するが、タイースは天国を夢見て息絶える。タイースが肉欲から精神的な愛への思い悩む間、独奏バイオリンが美しい「タイースの瞑想曲」を奏でる。

エジプト駐在員は必ず古代遺跡を訪れますが、何度も訪れるうちに、古代歴史の虜になる人もいます。私もその一人で、いろいろな遺跡を訪れ、本も沢山読み、発掘をされている各国の大学教授の講演も聞き、発掘現場にも行かせてもらいました。

エジプトの歴史を簡単に振り返ってみますと
紀元前8000年頃 人間居住の始まり

先王朝時代

(紀元前5500頃～前3100頃)
紀元前5000年頃 農耕開始
紀元前3200年頃 ノモス(州)が形成される。

初期王朝時代

(紀元前3100頃～前2686頃、第1,2王朝)
文字が生まれ、神々をめぐる信仰が現れる。
メネスという王が上下エジプトを統合、国家統一。実在の王ナルメルと同じ人物であったと思われる。

古王国時代

(紀元前2686頃～2181頃、第3～6王朝)
ピラミッド建設時代。太陽信仰を中心として、全体がまとまった時代。第3王朝のジェセル王による階段ピラミッド、第4王朝のスネフェル王による4つのピラミッド、クフ王、カフラー王、メンカウラー王によるギザの三大ピラミッドが有名です。ピラミッドは約4ヶ月間のナイル川増

水期に農作業が出来ない農民(農民は国民の99%を占めていた模様)を集めて作らせました。奴隷制はありませんでした。ピラミッドは王の墓ではなく、神聖な、再生復活を表すシンボリックな建物と考えられています。

第一中間期

(紀元前2181頃～前2055頃、第7～11王朝前半)
地方豪族が力を持ち、国全体が乱れる。

中王国時代

(紀元前2055頃～前1795頃、第11王朝後半～12王朝)
テーベを中心としてメンチュヘテプという王が出てきてエジプトが統一される。盆地の開拓や、運河の開削など、実用的な事業に注力された。

第二中間期

(紀元前1795頃～前1570頃、第13～17王朝)
ヒクソスと呼ばれる異民族が外から入ってくるので、混乱。テーベ出身のセケネラー2世がヒクソスに対抗して国家を統一、第17王朝を興す。

新王国時代

(紀元前1570頃～前1070頃、第18～20王朝)
第18、19、20王朝(約500年間)が、エジプト史上最も栄えた時代。ツタンカーメン、ハトシェプスト女王、トメス3世、アメンホテプ3世、アメンホテプ4世(アケナートン)、ラムセス2世など有名な王たちが出ました。近隣諸国に軍事遠征を行い、領土拡大、テーベの都は古代世界の中心地として栄える。
(アッシリア、続いてペルシャの統一があり、小アジアにヒッタイト王国が興る。)



ハトシェプスト女王葬祭殿

第20王朝時代に、エジプトの力が弱まり、リビアやヌビアの勢力が入り、力を持ち始める。

第三中間期

(紀元前1069頃～前747、第21～24王朝)

末期王朝時代

(紀元前747～前332、第25～30王朝)
上エジプトのヌビアの勢力がテーベに進攻して、第25王朝を始める。
アッシリアやペルシャもエジプトに侵入するが、紀元前343年にはアケメネス朝ペルシャの支配下に入り、エジプト人による王朝時代は終わる。

プトレマイオス王朝時代

(紀元前332～前30年)

紀元前332年、アレキサンドロス大王がエジプトを征服し、彼の死後、プトレマイオス朝時代となり、約300年続く。
最後の王クレオパトラ7世が紀元前30年にオクタヴィアヌスに敗れ、エジプトはローマの領土となる。

ローマ支配下

(紀元前30年～紀元395年)

ビザンツ帝国時代

(紀元395～641年)

西ローマ滅亡後、エジプトはビザンツ帝国の影響下に入る。

イスラム時代

(紀元641年～現在)

紀元641年、アラブ人の進攻によりイスラム化する。

個人的には次の人物に強い興味を抱いています。古王国時代第4王朝のスネフェル王(メイドウム「崩れピラミッド」、ダハシュールの「屈折ピラミッド」と「赤のピラミッド(別名、北のピラミッド)」、セイラのピラミッドと4つのピラミッドを建設)。アメンヘテプ3世(酒びたりの安楽な生活にふけり、昼は舟遊び、夜は王宮昼間で酒宴、テーベ西岸マルカタに贅を尽くした後宮を造営、常時300人の美女を待機させていたと言われる。60歳近くになりミタンニ王国から15歳の少女タドゥケバ(後のアクエンアテン王妃ネフェルティティ)を王女として娶る)。アメンヘテプ4世=アクエンアテン(アテン神を唯一神とする宗教改革を実施)。ツタンカーメン。ラムセス2世(8人の正妻を持ち、その内、二人は自分の娘、二人は自分の妹、後宮には常時500人を超える女性を待機させ、130人もの子供をもうけ、92歳頃まで生き、最初の息子達12人は父より早く死んだ為、13番目のメルエンプタハが跡を継いだ。エジプト最大の建設王)。アンケセナーメン(ツタンカーメン王妃でツタンカーメン死後、ヒッタイト王に王子一人を自分の主人として送るよう要請。王子が国境近くで暗殺された為、ツタンカーメン王の宰相アイがアンケセナーメンと結婚し、王位を継ぐことになる)。
古代エジプトの墓には、ビールやワインを作っていたことが壁画に沢山描かれています。
時代は下りますが、キリスト教の修道院の起源もエジプトです。

まだエジプトにいらっしゃっていない方には是非訪れて頂きたいと思いますので、エジプト旅行の魅力を書いてみます。

1. 遺跡観光

(1) ギザの3大ピラミッド及びスフィンクス

エジプト観光の最大の目玉である、紀元前26世紀クフ王、カフラー王(クフ王の息子)、メンカウラー王(カフラー王の息子)が建てた3大ピラミッドとスフィンクスをまずご覧になって下さい。とにかく驚きます。太陽の船博物館も見逃せません。



カフラー王のピラミッドとスフィンクス

(2) カイロ考古学博物館

何といっても、素晴らしいツタンカーメンの秘宝が納められており、特に「黄金のマスク」は国外持出禁止となっていますので、必見です。詳しいガイドさんの説明で2、3時間じっくり回られることをお勧めします。



ツタンカーメンの黄金の仮面



黄金の椅子：ツタンカーメンと妻
アンケセナーメン

(3) サッカラの階段ピラミッド

紀元前27世紀第4王朝ジェセル王が建てた世界最古の石製ピラミッドである「階段ピラミッド」があります。近くにある第6王朝テティ王のピラミッドでは玄室に掘られたピラミッド・テキストを、第5王朝時代の裕福な貴族ティのmastaba墳及び第6王朝の高官であったメルルカのmastaba墳では当時の日常生活を描いた見事なレリーフ(浮彫り)を見ることが出来ます。



サッカラの階段ピラミッド

(4) メイドウム崩れピラミッド及びダハシュールの屈折ピラミッドと赤の真正ピラミッド(スネフェル王建造のピラミッド)

「崩れピラミッド」は階段ピラミッドを真正ピラミッドにしようとしたが後日崩れてしまい、「屈折ピラミッド」は途中まで建設した段階で、重量に耐え切れず内部が崩れ始めた為、角度を変更し完成したと言われています。この二つのピラミッド建設経験を踏まえ、真正ピラミッドである「赤のピラミッド(別名：北のピラミッド)」を完成させました。この父親の真正ピラミッド建設経験を基に、息子のクフ王がギザに大ピラミッド(真正ピラミッド)を建設します。



崩れピラミッド



屈折ピラミッド



赤のピラミッド

(5) **ルクソール東岸**：カルナック神殿及びルクソール神殿
ルクソールはその昔、テーベと呼ばれ中王国時代から新王国時代にかけエジプトの中心地だった所です。カイロから南方に飛行機で1時間。ルクソール東岸で見るべきは、カルナック神殿とルクソール神殿です。



ルクソール神殿(夜景)

(6) **ルクソール西岸**：王家の谷(ツタンカーメンの墓、ラムセス6世の墓、トメス3世の墓他)、ハトシェプスト女王葬祭殿、王妃の谷(もし入場が許されれば、ラムセス2世妃ネフェルタリの墓が必見)、貴族の墓(レクミラ、ラモーゼ、センネフェル、ナクトの墓は必見です)、職人の墓地(センネジェム、インヘルカウ、パシェドウの墓が必見です)



パシェドウの墓(職人の墓地)



ナクトの墓

(7) **アブシンベル大神殿**：ラムセス2世が権力誇示、南方威嚇、太陽神崇拝の為に建造した大神殿。



アブシンベル神殿

(8) アスワン: イシス神殿、切りかけのオベリスク、アスワン・ハイダム

カイロに2日間、アブシンベル/アスワン/ルクソールに2、3日は必要です。

2. ダイビング

シナイ半島の南端にある紅海の観光地シャルム・エル・シェイクは世界的に有名なダイビング・スポットです。短期間で安くライセンスを取得出来ますので、時間に余裕がありましたら、是非挑戦して下さい。コック付、キャビン付ボートを10人程度で借り、泊り込み、毎日4、5本潜り、夜は美しい星を見ながら酒を飲むのは本当に素晴らしい経験です。



グレー・リーフ・シャークとバラクーダ(大力マス)。サメは、バラクーダが大好き。僕らはすぐ近くで見て、撮影しています。

3. ゴルフ

カイロ中心部から車で30分以内に27ホールのゴルフ場が2ヶ所、18ホールのゴルフ場が2ヶ所ありビジターでも日本と比較するとはるかに安い料金にてプレイ出来ます。ナイル川の水をパイプで引っ張ったり、豊富な地下水をくみ上げたりでグリーンは素晴らしい状態で維持されています。18ホール連続でプレイした後、食事を取りますが、湿度が低いので汗を殆どかかないこともあり、ゴルフ場でシャワーを浴びる必要を感じません。レティーフ・ゲーセン(南ア出身のプロ)と数ホール一緒にプレイさせてもらったという楽しい思い出もあります。

4. 砂漠オアシス・ツアー

カイロから西方に車で約4時間でバハリヤ・オアシスに到着しますが、石灰岩が風で浸食された跡が大きな白いきのこ状に残っている白砂漠と、鉄分が表面を覆った黒砂漠があり、特に白砂漠の景観には感激します。一泊は砂漠の真ん中で寝袋に包まれ星を見ながら夜を過ごすのは本当に素晴らしい経験です。バハリヤから更に西方、リビア国境に近く、カイロからは車で約8時間の処に、シーワ・オアシスがあり、雄大な砂漠でのサファリ・ツアーを楽しめます。



白砂漠

5. ルクソール/アスワン間ナイル・クルーズ

アスワン/ルクソール間を豪華クルーズ船で移動し、途中にあるコム・オンボ、エドフ、エスナ等の神殿を観光します。ナイル川の流れ(南から北の地中海に向けて流れています)の関係でアスワンからルクソールに向かう場合には3泊4日、逆の場合には4泊5日のクルーズとなります。遺跡観光をしながらナイルの兩岸を眺めのんびりとクルーズを楽しむのは日本では出来ない経験です。

6. ナセル湖クルーズ

ナセル湖はアスワン・ハイダム建設により出来た大きな人造湖で、ハイダムにより水没してしまう遺跡のいくつか、水没しない場所に移されていますが、そうした遺跡を訪れる3-4泊のクルーズです。

7. キリスト教聖地への旅

シナイ半島のセント・カテリーナ寺院は東ローマ皇帝ユスティニアヌスが541年にシナイ山の麓に建設した修道院で、4世紀にはこの聖地を訪れるキリスト教徒が絶えなかった模様で、現在でもキリスト教徒が必ず訪れるべき聖地となっています。朝暗い内にホテルを出発、シナイ山頂上で日の出を拝むのは素晴らしい経験です。



シナイ山登山

10年間のエジプトでの生活は今振り返ると楽しいもので、エジプトの魅力を満喫しましたが、多くの方にエジプトを訪れて頂き、その魅力を発見して頂きたいと思っています。